

景況レポート

(8月分・情報連絡員80名)

6業種で悪化割合が減少し、 全体景況DI値8.7ポイント上昇

【概況(全体)】

8月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが7.5%(前回調査3.8%)、「悪化」が35.0%(同40.0%)で、業界全体のDI値は-27.5となり、前月調査と比較し8.7ポイント上回った。

非製造業の景況DI値は、全国、東北・北海道ブロックを下回ったものの、製造業で数値が回復したことで全体DI値を押し上げている。

【業界別の状況】

業界別では、鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しており、小売業の一部で好転に転じ、建設業をはじめとした6業種で悪化割合が減少したことが全体の景況DI値を引き上げる要因となった。全国の景況感は、お盆休みの影響等もあり停滞した感がある。消費税前の駆け込み需要は一部見られるものの影響は軽微である。消費税、働き方改革への対応、最低賃金の上げを懸念する声も多い。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-27.5	-30.6	-28.4
製 造 業	-28.1	-36.0	-35.3
非製造業	-27.0	-26.4	-24.5

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

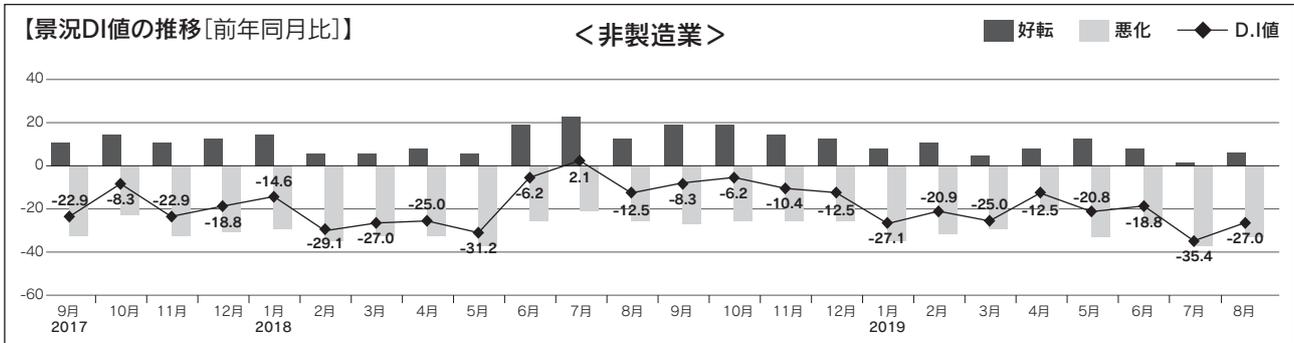
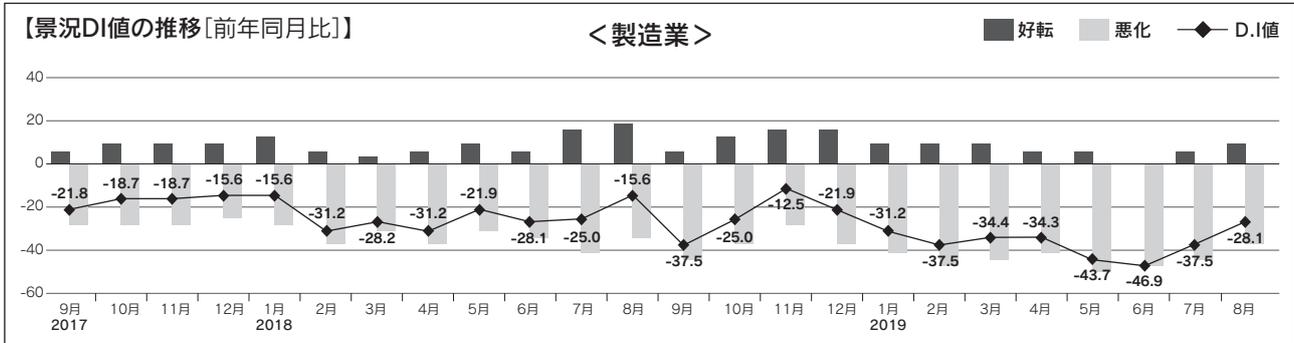
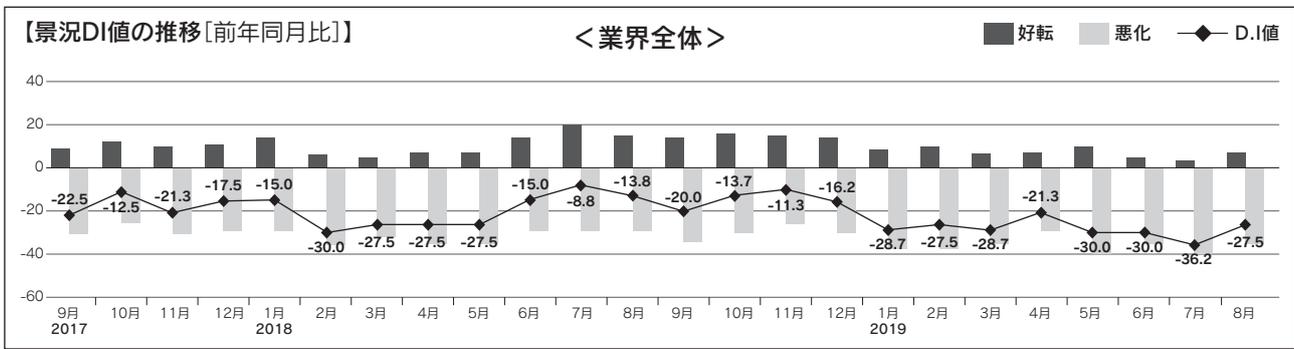
【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30超 10未満
 雨 △30超 △10未満
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	8月はお盆の特需で売上は増加した。対前年同月比ではほぼ同程度での推移であったが、気温が異常に高く、限られた商品のみの動きとなった。
食料品 (パン)	異常天候による高温のため、売上が減少し前年同月を下回った。気温が売上に大きく影響したことで今回は悪い結果となった。
繊維工業 (ニット)	秋物生産の最盛期でキャパシティは埋まっているが、先月に引き続き加工賃は厳しい。10月以降の発注量が例年に比べて異常に少ない。増税後の買い控えを警戒してか、在庫リスクを極力抑えようとする意図が感じられる。
繊維工業 (繊維)	消費税、最低賃金の引上げに伴うコスト負担が経営に与える影響を懸念している。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	お盆休みが長く、製品出荷量、原木仕入量とも前月比較で減少したものの前年比較では増加している。製品販売価格は外材(ホワイトウッド)の輸入価格が大幅に値下がりしており、国産材の一般製品価格の相場にも影響するものと予想され、収益面では悪化の要因となりそうである。
木材・木製品 (外材)	堅調な住宅需要に加え、店舗の木質化によりフロア合板の受注が増加するなど、合板の荷動きは活発でフル生産の状態が続いており、在庫も依然として低水準にある。原材料の国産スギ材については、猛暑等の影響で生産量の減少が危惧されたが、合板用材に対する年間契約によって入荷は順調である。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	8月の出荷数量は前年同月比78.0%。4~8月累計で88.3%台と依然低い数字となっている。前年比で増加しているのは大館北秋地区、県南地区のみで、加えて10月からの消費税増税で経営環境はますます厳しくなると予想される。
鉄鋼・金属 (機械金属)	工物件はかなり出回っており、各社100%以上の稼働率で推移している。お盆すぎから見積依頼が減少しており、10月からの消費税率引き上げの影響が大きいのではと心配している。
一般機器 (金属加工)	受注面では前年前月比較で大幅に減少、依然として先行きが不透明な状況にある。原材料は値下がり傾向にある。
その他製造業 (漆器)	お盆の帰省客やお祭り等の観光客で工芸館の来客数が微増した。それに伴い売上も微増したが、景気回復の実感までには至っていない。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果) 売上高は前年同月比87.5%で推移した。繁忙期のお盆需要を見込み、市況の回復が期待されたが、野菜に関しては全国的に不安定な気候(異常高温や長雨等)による品質低下、収穫量減少等の影響が顕著に現れた。果物類に関しては、入荷量減による高値傾向が続いたため、消費者の購買意欲は高まらなかった。ピークはお盆前の一時期にのみ集中し、結果的に全体売上は低迷した。

卸売業 (自動車中古部品) 鉄価格が2,000円/t下落し、鉄及び非鉄の販売条件が悪化している。使用済自動車の在庫台数は前月に引き続き減少している。

小売業 (花卉) 7月は多少持ち直していたが、8月は1割ほど落ち込んでいる。需要の停滞が続いている。天候不順などもあり品薄状態と高値が続いている。

商店街 消費増税による駆け込み購買の動きはみられない。日中の暑さから人通りは少なく、小売店舗への来客は低調であった。買い物客は暑さを避け、近隣大型店舗へ涼を求めたようである。(秋田市)

夏祭り関連で売上は作れたが、他の商品の動きが悪く昨年対比はマイナスであった。天候により売上が左右される衣料はメーカーの在庫不足もあって売り逃しも少なくなかった。(大館市)

サービス業 (タクシー) 天候に大きく左右されたようである。今年は暑い日が多かったことからタクシーの利用客が増加した。また、お盆休みを中心に暦の関係で休みが長くなったことから、帰省客が昨年よりは多く、夜が忙しい地域もあった。

サービス業 (旅行) お盆休暇が長期であったこともあり国内は127%、海外も108%と好調に推移した。国内は、関東、関西。海外はグアム、台湾が主力であった。

建設業 (電気工事) 猛暑の影響でエアコンの需要が伸びているが、エアコン本体はハウスメーカーからの支給であり電材会社の恩恵はない。工事店は長期の休日も影響して多忙であった。(中央地区)

運輸業 (トラック) お盆休みが長く、この間一般貨物は動かなかった。4月からの5ヶ月間は物流の動きは悪く、3年前との比較でも最悪であった。